



未就学の部

平成 21 年 8 月号 NO / 5

夏休みが始まってもうすでに折り返し、今年は梅雨明けが例年に比べると一段と遅く、過ごしやすい夏の始まりとなりましたが、雨にも悩まされるスタートとなりました。振り返ってみるとたくさんの取り組みを子ども達と過ごしてきました。この取り組みを通してどんな事を身に付けてくれているのか、今は分かりませんがきっと成長してきていると願いながら、残り半分の取り組みが子ども達にとって有意義なものになるようにしていきたいと考えています。



今月のすがた

「ささのは さ~らさら」7月になると、朝の会の歌に「たなばた」の歌が加わりました。「かえるの合唱」「かたつむり」など朝の会では季節やその日のお天気に合わせて歌を歌います。また、子供達のリクエストに応じてリズム遊びや好きな歌を入れることもあります。一日の中ではほんの少しの時間ですが、子供達との言葉や表情のキャッチボールで「今日はみんなノリノリ!!」「ちょっとお疲れ気味?」と子供達の様子を知ることができ、一日のスタートを切るのにとっても大切な時間だと考えています。つぼみの活動を見ていくと「体操・お母さんにいってきます!・朝の会・療育……」という毎回同じような繰り返しと思われるかもしれませんが、その中にも「動や静」があり、一つ一つが意味をもっていると思います。朝の会で元気良く返事をする、じっくりと集中して療育(つぼみのおべんきょう)



に取り組み、楽しく制作や調理活動

をする、お友達との関わりの中で遊ぶ等など。素敵な作品が出来上がることも素晴らしいかもしれませんが、そこまでの過程としての一人ひとりの取り組み方、お友達との関わり方なども活動を通してしっかりと見ていきたいと思っています。7月の制作活動では、最初に七夕飾りを作りました。はさみを使って細かい切込みをい入れるお飾りに苦労しながらも、懸命に手を動かしていました。思い思いの願いを書いた短冊、みんなの願いが叶うといいですね。次に、以前にも取り組んだことのある

にじみ絵の応用で「アサガオ」のお花を作りました。赤と青を混ぜた絵の具がじわじわ～と紙ににじんでいく様子をじっくりと見ていきました。プレイルームに咲いた大輪の朝顔、つぼみにもいよいよ暑い夏がやってきました。

7月下旬からは、夏季日課となり活動場所も事務室にお引越しをしました。隣の部屋のトイレに行こうとしたら見上げる程大きなお兄さんがいてびっくり、おもちゃを取りにプレイルームに行ったら小学生がいっぱいいて賑やかでまたまたびっくり。そんなびっくり連続の中、「流しそうめん・おにぎり作り」「カレー作り」では小学生・中高生の活動と一緒に参加してもらいました。流れてくるそうめんを一生懸命すくい、おにぎりをほおばり。カレー作りではタマネギをむいたり、みじん切りにしたり、ルーをお鍋に入れたりと沢山の経験ができました。いつもとは違う雰囲気・スピードに圧倒されて大丈夫かな？と心配していましたが...いつも以上に張り切ってご飯を食べていたり、大きな子達の間をかいくぐってマイペースで遊んでいたりとたくましく？過ごすことができていたように思います。



夏休みの制作の一つ、「暑中見舞いハガキ」作りではスタンプを使ってヒマワリの絵を描きました。出来上がったハガキはみんなで郵便局まで歩いてポストに投函。「幼稚園の先生に届きますように」「郵便屋さん、おばあちゃんにちゃんと届けてね」赤いポストにハガキを入れながら、

何だかお願い事をしているような子供達でした。陽の光をいっばいに浴びて咲くヒマワリ、つぼみの子供たちにも沢山の光が注がれて元気いっばいぐんぐんと成長していった欲しいなと思いました。



Kのひとこと職員紹介第2弾

子ども達と関わりが深くなると、つい「コラー・何してるー」と怒り口調になる。しかし、つぼみには、どんな時も、穏やかにそして優しく、関わる先生がいる。島塚先生だ。通称、島先生。笑い方に特徴があり「オホホホ」と上品な一見つぼみにの雰囲気に合わない様に思える。ところが、子ども達には、大人気！！そんな、島塚先生は、地味な見た目を一新、最近では、消火器と間違えてしまうほどのつぼみTシャツを自ら選び、積極的に子どもたちの戦いの場に現れ、静かな声、低い声で「どうしたの？」と耳を傾ける。子ども達は、表情を失い、消火器に向かい...いえ...反省をし素直に謝る事ができる。

島塚先生は子どもが大好き、優しく力持ちとは島先生の事(笑)ある時のエピソード。外出する際、子ども達が、島塚先生の手を取りに行った。普通なら「　　ちゃんは、　　先生だよ。」というのであろう。島塚先生は、「こんなにたくさん、手を繋ぎに来てくださって...私なんかでよろしいのでしょうか？島塚は光栄でございます。」と涙を流した(笑)バスから降りる時には、たった一人で車椅子を担ぎ植木をまたぎ降りて行く。だからこそ、島塚先生に職員も子どもたちも信頼しきっているのだ。大きな身体で小さな気づきのできる島塚先生は、今日もつぼみで「とんでもございません」「かしこまりました」と笑顔で通ってくる親子を迎えていることでしょう。